

国立国語研究所学術情報リポジトリ

おわりに

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 研究社 公開日: 2026-07-17 キーワード: 作成者: 石黒, 圭 メールアドレス: 所属: 国立国語研究所
URL	https://doi.org/10.15084/0002000640

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0
International License.



おわりに

博士論文を書き終えた人ならば、誰もが心のなかに密かに持っている後悔があります。それは、自分の研究に残ってしまった消しようのない弱点、いわゆる「穴」の存在です。この「穴」は研究計画を作った時点でできてしまったもので、あとからでは直しようがありません。直そうとすると、リサーチデザインから見直しをせざるをえず、苦勞して書いた博士論文が音を立てて崩れます。もしタイムマシンがあるならば、修士課程のあの時代に戻って、自分を叱ってやりたい。そして、リサーチデザインの「穴」を塞いで帰りたい。博士論文を書き終えた誰もが、心のどこかできっとそう思っているはずです。

それは、コーパスを作り終えた人も同じです。大規模コーパスを完成させたのだから、さぞ充実感があるだろう。そう思われる方もいるかもしれませんが、当事者に残っているのは、なんとも苦い後悔の気持ちです。設計段階でもっときちんと考えておけば、こんなことにはならなかったはずだという思いばかりが募ります。とはいえ、もう構築しなおすわけにはいきませんから、弱点を抱えたまま、公開するしかないのです。「公開」は「後悔」です。

しかし、そうした失敗を生かす唯一の方法があります。それは失敗を世に出し、あとに続く人に他山の石にしてみらうという方法です。原稿を執筆する以上、「私たちは十分な設計に基づいてうまくやったのだ」という筆致で書いてしまうのが執筆者のさですが、本書を注意深くお読みになった方は、本書が失敗の連続の記録だということに気づかれたはずです。読者のみなさまが私たちの失敗を糧とし、今後、みなさまのコーパス分析やコーパス構築の成功へとつなげていただけるのであれば、執筆者一同、これに勝る喜びはありません。

『日本語学習者縦断作文コーパス (W-CoLeJa)』の開発にさいしては、ほんとうに多くのみなさまにお世話になりました。

学部入学から大学卒業までの4年間(人によっては3年間、5年間)、調査に参加してくださった(今でも参加してくださっている)世界20大学の954名の日本語学習者のみなさま、現地で調査を支えてくださった海外協力校の先生方に厚く御礼申し上げます。お名前を挙げることはできませんが、新型コロナウイルスの世界的大流行(パンデミック)のなか、お一人おひとりの忍耐強いご協力がなけ

れば、この調査を進めることはできませんでした。ほんとうにありがとうございました。

また、W-CoLeJaという大規模コーパス構築に携わってくださった（今でも携わってくださっている）国語研のスタッフのみなさまにも深く感謝申し上げます。ここでは、映画のエンディングに字幕として流れるクレジットのように、お名前を挙げることにいたします（敬称略・五十音順）。複数の担当を持つ方もいらっしゃると思いますが、一つに絞って掲載しています。

- ・海外協力校担当：Iwamoto Eriko（タイ語圏：現・企業勤務）、烏日哲（中国語圏）、王慧雋（中国語圏：現・上海对外経貿大学）、赫楊（中国語圏：現・天津外国語大学）、胡佳芮（中国語圏：現・上海外国語大学）、呉丹（中国語圏：現・東京都立大学）、呉梅（中国語圏：現・蚌埠工商学院）、渋谷実希（タイ語圏：現・東京大学等）、沈希津（韓国語圏：現・早稲田大学）、Srianutachai Ratikorn（タイ語圏：現・企業勤務）、Dang Thai Quynh Chi（ベトナム語圏：現・企業勤務）、董芸（中国語圏：現・深圳大学）、曹旼永（韓国語圏：現・早稲田大学）、中村有里（ヨーロッパ語圏）、朴在恩（韓国語圏：現・韓国外国語大学校）、韓洙玟（韓国語圏）、Rawinan Niramol（タイ語圏）、Lai Thanh Hoa（ベトナム語圏）、Le Thi Thu Ha（ベトナム語圏）
- ・データ整理担当：高橋香菜、中津飛鳥
- ・システム担当：井上雄太
- ・Web公開担当：浦野歩、工藤隆弘
- ・試験開発担当：市江愛（現・埼玉大学）
- ・形態素解析担当：朱雅蘭
- ・誤用分析担当：江澤実紀
- ・印象評価担当：井伊菜穂子（現・琉球大学）、本多由美子

上記以外にも、たくさんの方にご支援をいただいています。S-CoLeJaおよび辞書プロジェクトの担当で、サポートくださった国語研のスタッフは、市川章子さん、呉楚琦さん、須賀和香子さん、橋本宜子さん、布施悠子さん、李琦さんです。また、EssayLoggerの開発では渡邊弘喜さん（一橋大学）に、試験分析にあたっては吉田暁さん（城西大学）に、形態素解析にあたっては中村壮範さん（国立国語研究所）と横野光さん（明星大学）に、「ひまわり」へのデータ搭載にあたっては山口昌也さん（国立国語研究所）に、それぞれたいへんお世話にな

りました。

そのほか、作文添削では、伊藤拓人さん（アメリカカナダ大学連合日本研究センター）、菅舞香さん、佐治早紀さん、高橋紗弥子さん、中山裕子さん、名越優加理さん、羽富文子さん、茂木早さん、JLPT対策講座では雍婧さん、石川晶子さん、黒川美那子さん（福建師範大学）、就職対策講座では黄鈺庭さん、朱婉華さん、ランゲージパートナーの推薦では、有田佳代子さん（帝京大学）、小柳かおるさん（上智大学）、志賀玲子さん（武蔵野大学）、中井陽子さん（東京外国語大学）、古川敦子さん（津田塾大学）、データ処理では黄一峰さん、謝正科さんに貴重な時間を割いて、ご協力いただきました。重ねて御礼申し上げます。

本書は、W-CoLeJaの内容をご紹介します本であり、国立国語研究所機関拠点型基幹研究プロジェクト「多様な言語資源に基づく日本語非母語話者の言語運用の応用的研究」（サブプロジェクト「日本語学習者の作文の縦断コーパス研究」）および科研費JP21H04417の研究成果です。W-CoLeJaデータについては、本書でも書いたとおり、第一次公開は2026年3月、第二次公開は2027年3月、最終公開は2028年3月を予定しています。

データ公開の最新情報は [\[https://www2.ninjal.ac.jp/jll/writing/index.html\]](https://www2.ninjal.ac.jp/jll/writing/index.html) に載せていくつもりですので、適宜ご参照ください。

本書をとりまとめるにあたり、小著『文系研究者になる』でお世話になった研究社編集部の松本千晶さんに、またもお手を煩わせてしまいました。松本さんの強力なサポートのおかげで、ようやくこのような形になりました。

今後はW-CoLeJaのデータを用いた最新の研究成果を、研究社から論文集の形で、松本千晶さんとのコンビで2026年度中に4冊お届けする予定です。そちらのほうも、ぜひご期待ください。

最後に、本書を最初から最後までお読みくださり、この「あとがき」までたどり着いた読者のみなさまに感謝申し上げます。本書がみなさまの研究・教育活動の一助となることを心から願い、筆を擱かせていただきます。

2025年晩秋 執筆者を代表して
石黒 圭（国立国語研究所）